

R 5 地域支援連絡会議 グループワーク意見まとめ			グループワーク意見【まとめ】		【資料2ー③】
所属機関 出席者 意見	①地域や施設等で「気になった」出来事がありましたか？	②気にかけた、気につけあった行動や取組はありますか？（継続した取組、新たな取組など）	③課題として感じたこと等がありますか？	④他機関と連携した、協働した、もしくはできたろうまくいったのではというケースがありますか？	⑤今日話した中で、工夫したこと、改善点、良いアイデアとがありますか？
医師会	・日常生活で情報交換の場が少ない。 ・コロナで関わりが薄れた人もいる。 ・「生きていても仕方がない」「長生きしたくない」と訴える独居の患者が増えた。（希死念慮を抱く人が増えていること） ・一人だけで登下校中の児童への声掛け（挨拶） ・いわゆるゴミ屋敷の問題 ・タワーマンションの増加とそこで暮らす独居高齢者へのアプローチ ・薬の長期処方問題。コロナで3カ月の薬の処方ができることになった。季節ごとに会う人の把握はしにくい。	・孤立している人が気になる人。取り組む側は協働して課題を見据え対策を練る必要がある。 ・診察に来た方に看護師等が生活に関して情報を取り、困りごとがないか聞いている。 ・多くの情報を得るようにする。 ・他施設の活動を参考にする。 ・町内会の活動で班長として会合に参加し、意見交換に加わった。 ・カラス被害に遭ったゴミ収集場の撤去、整備作業に協力した。	・地域のイベント（人手、人材の不足、施設のキャパシティー） ・地域と関わる、交流の増やし方 ・福祉の人材支援 ・情報収集の方法 ・コロナで交流の仕方が変化した - 地域活動に参加する機械が少ない ・地域活動（町内会）の中心となって活動している従事者の高齢化 ・若い人の無関心さ（啓発の大切さ、SNSの活用） ・人材がいろんな場所で不足する。また見通して事業をやり遂げられる人材が必要	・北区医師在宅医療推進委員会に地域振興会、民生委員児童委員協議会、女性団体など地域に根ざした団体代表者との意見交換を行った。 ・セキュリティの高いタワマンに医師が入りにくい。管理人次第になる。	・イベントを増やし、会う回数を増やす ・信頼関係を築く ・個人情報の入手→信頼関係の構築 ・行政の窓口と地域をつなげる ・SNS、アンケートを活用する ・マンション管理人を通じての周知 ・防災訓練 ・SNSを活用した周知、啓発 ・タワマンの問題は、マンション内で防災訓練等、住民同士のつながりをつくる。（前回の会議でも意見あり）
社会福祉協議会（区・地域）	・認知症の症状ゆえにお金はあるのにお金が使えない（銀行に行けない、おろせない）方が増えている。 ・お金の管理ができない人もほかの区に突出して多い。 ・要援護者の未返信者や同意者宅に訪問しても現状確認が出来ない方 ・行事、参加者が高齢化 ・病気等で困った状況になった時、どこに助けを求めたらいいかわからない方がいる（特に一人暮らしの方） ・自転車のマナーが悪い。（登校時に心配） ・次のボランティアの担い手 ・コロナ禍を超えて、以前のカタチに戻せていない。食事サービスは予約で名前を取っている。 ・食事サービスが配食になって申込が増えていますが、本来は会食型が地域で実施している良さがある。そのままの申込が継続するのか不安。 ・福祉職員の人材難 ・町内の行事や独り住まいの方への声掛け ・マンション管理人との関係づくりや関係機関との連携を強化する、情報収集するということ。 ・地域活動の情報提供（例えば「ふれあい喫茶」がある等） ・要援護者の管理をしている。タワーマンションのセキュリティが一つの壁になっている。1年に1度現状確認をしたいが、障がいのある方とかなかなかお会いできていない。	・相談者に同行して窓口に行くこと。寄り添い、一緒に行ってあげる、つないであげることが大事。 ・高齢者の方などの見守り訪問活動 ・地域事業への参加を勧める。 ・認知症の方の家に訪問し、認知症カフェスマイルへお誘いし同行する。 ・子ども食堂で一人で来ている子に声をかける。 ・登校時の見守り活動 ・できるだけ地域で色々な活動をする。 ・認知症カフェのお誘い。 ・敬老会でペットボトルのお茶を配るのでなく、コップによそって配付して、声掛けをしていた。 ・百歳体操の申込が増加し、会場のキャバがなく待機が出ている。回数を増やしたいが、運営者も年齢を重ねている方なので、安易に回数を増やすこともできない。 ・いろんな行事に参加している人の年齢層が上がっている。80代後半くらいが多い。 ・気づいたらワンルールのマンションが建っていて、地域との付き合いを拒みがち。 ・（要援護者の管理）要援護者の未返信者に電話、訪問で連絡のつかない方には不在箋を入れている。同意書についても会えるまで、継続的にやっている。 ・未返信者にも諦めずに声掛けすることをしている。地域の活動はボランティアだと知って欲しい。 ・区民ホールでの事業実施の時に区役所玄関の案内員が認知症の方を同行していた。（相談先が分からない様子を察知して）	・イベントに誘っても拒否される方。 ・個人情報の取扱い ・人材と教育。 ・見守り活動をしている中で地域事業、イベントの参加を勧めたところ参加したくないと拒否されることがある。 ・見守り活動で子どもは挨拶するけど親がしない人もいる。 ・地域の皆さんに活動が今より少しでも周知できるようにする。 ・相談に来られない方への情報発信。見守り活動や色々な活動をして、何もつながっていない方々がいてる。どうやって発信するか課題。 ・自分が住んでいる地域について知らない、無関心な方が多い。掲示板も素通りしている。 ・ポスター貼ったり、チラシを撒いたりするが、届いて欲しい人に情報が入っていないことが課題。	・高齢者の変化があった時にオレンジチームや包括に確認したいが、個人情報の壁があり、情報を教えてもらえず困っている。 ・実習生の自分の施設で完結せずにほかの施設とも連携したり見守り活動に参画してもらったり、生活に密着したところでの経験もして欲しい。 ・新しい取組として、地域で新築マンションの住民向けに写真展（マルシェ含め）を開催した。町会未加入ではあるが、こうした取組によりお手伝いしてくれる方が少しでも出てきたらと思い、やっている。 ・地域の横断的な集まりが少ない。地域活動協議会の活動と違うとか縦割りになっている。 ・区役所から遠い地域なので、できるだけ事業を地域でやるというのに力を入れている。 ・警察の人や保健師等の専門職に来てもらって話をしてもらった方が入りやすい。 ・個人情報が一番大事にしている。返信のない方への要援護者の事業の説明等を行い、コーディネーターや民生委員と一緒に行く場合もある。その中で聞いた困りごとは介護の方とつながってもらっている。	・事業の取組内容を丁寧に説明し了解を得る。 ・アウトリーチによって生活の中での困り事やニーズが見えてくる。 ・無理に参加を勧めことはせず、地域事業、イベントのチラシを渡して読んでもらう。 ・自分から声をかけるようにしている。 ・ポスター、チラシ、掲示板での周知 ・事業の時に声をかける。（実行中） ・専門職の方にはできるだけ直接皆さんに声をかけていただく。（保健師、包括、警察の方などできるだけ具体的にわかりやすく） ・挨拶で顔見知りとなる。 ・イベント時にアンケートを取って、名前や住んでいる場所を聞いて、声掛けして「楽しかったですか？」などから広げる。 ・公式LINEアカウントを作っている。イベントに来た方に登録を誘う。次の企画の情報を流すというカタチで掴むようにしている。 ・一人でも多くの目で見守りが行われるように当人の了解を得ながら地域福祉コーディネーター、民生委員と現状確認を行っている。 ・要援護者の同意者の現状確認の仕方（時間帯や曜日を変更） ・どうやって声かけするか？あの人はあのひと友達なんかな？とアンテナを張る。何回も顔を合わせて安心してもらうことが大事。

R 5 地域支援連絡会議 グループワーク意見まとめ				グループワーク意見【まとめ】	
------------------------------	--	--	--	----------------	--

所属機関 出席者 意見	①地域や施設等で「気になった」出来事がありましたか？	②気にかけた、気かけあった行動や取組はありますか？ （継続した取組、新たな取組など）	③課題として感じたこと等がありますか？	④他機関と連携した、協働した、もしくはできたろうまくいったのではというケースはありますか？	⑤今日話した中で、工夫したこと、改善点、良いアイデアとがありますか？
よりそい サポート きた	・窓口に来られた方の希望される支援につながらなかった。 ・マンション住民の騒音などに対する苦情 ・相談中に帰られる方 ・基本的に相談に来られる方は気になる。	・窓口付近で立ち止まっている方へのお声かけ ・相談後の経過が気になる方への連絡、メール、郵送、訪問など	・地域から相談を受けた時の個人情報について、どこまで伝えていいか不安。	・相談に来られた方をほかの機関に繋ぐときは、相手先に連絡してつなぐようにしている。	・当窓口で対応が難しい場合、他機関の紹介だけでなく（必要に応じて）担当者に情報共有し、つなぐ ・支援者の向けのどこに繋ぐといいのかわかる冊子「北区支援者ハンドブック」（平成30年度）があるので、それを見直ししている。 ・関係機関との連携

所属機関 出席者 意見	①地域や施設等で「気になった」出来事がありましたか？	②気にかけた、気につけあった行動や取組はありますか？ （継続した取組、新たな取組など）	③課題として感じたこと等がありますか？	④他機関と連携した、協働した、もしくはできたろうまくいったのではというケースがありますか？	⑤今日話した中で、工夫したこと、改善点、良いアイデアとがありますか？
障がい者 基幹相談 支援 センター	・高齢者や認知症対象の地域活動やサロンはあるが障がい児（者）、家族が地域で集えるところがない。 ・就労訓練後の就労先が非正規雇用や雇用につながらない人が多くいる。 ・余暇活動などを楽しむことのできる場、機会の充実が必要であり、ボランティアを含めその担い手を地域で確保していくことが必要。 ・障がい者と健常者に壁ができてしまっている。 ・課題として、障がい者の居場所がないこと、見守りがないってこと、余暇活動が限定的となっていること。 ・挨拶から顔みしりになって繋がったらいいなと思っている。	・「豊崎じんじん」という地域活動で、障がい児（者）の福祉事業所が制作している商品の販売で参加できるようになり、そのつながりで他の飲食店での展示やお客さんと障がい者と地域でつながりを持てる場所となっている。 ・区役所において障がい者週間（12月3日～9日）に合わせて「メッセージライブ」を開催し、障がいの有無に関わらず尊重し合い支え合う地域の啓発活動を行っている。 ・就労訓練を請け負うことになり地域で働き、社会参加ができる機会の1つとなっている。	・障がい者は助けを求めても「理解してもらえない」という不安を感じ、地域の方は助けたくても「声掛け方法や手の差し伸べ方がわからない」という壁がある。 ・就労では、勘違いされることがや理解されず困ったり辛い思いをして生きづらさを感じている。 ・スポーツイベントでは地域の方と関わる機会にはならず、ハード面で参加する人も限定された。 ・移動支援の外出支援サービスでは支援者と1対1の関わりとなり、時間の規定があることで余暇の充実には至っていない。	・中崎商店街とコラボしてコロナ時にマスクとエコバッグを販売させてもらった。そこで、企業さんの目に留まって、その企業さんとやり取りが始まった事業所もある。 ・豊崎神社で開催している「豊崎じんじん」に福祉作業所で作った手作り作品を販売。このイベントにはいろんな方がお店を出しているのでも出会いもあり、知り合った飲食店の方がお店で作品を展示してくれて、知ってもらえるきっかけになっている。 ・小中学校とは、繋がりたいけど、なかなか入れない。お子さんに福祉教育といか、「こんな人もいる」ということを伝えたいけど、なかなか難しい。 ・障がい者の人が困っている感ばかり出すのではなく、「地域の中の一人ですよ」ということを声かけあえるイベントがあればと思う。他機関の人とつながっていききたいというのはある。 ・障がい者スポーツを開催し、コナミスポーツのインストラクターやUFJ銀行の職員がボランティアで参加し一緒に楽しむ機会となった。	・地域で障がいの理解が深まり両者が互いを知れるよう福祉従事者が橋渡しをし続ける必要がある。 ・小中学校、公民館などを活用できる体制を構築し、地域と交流が図れる地域づくりを行っていき、災害などの避難場所となった際に、地域の方々が互いに見守れる関係を構築できると思う。 ・区内には就労訓練の事業所が90か所以上あり、企業や商店も集まっていることから、開放日を設けてボランティアを募って、障がい者が働いている力を感じてもらい、仕事の一助につながるキッカケづくりが必要。 ・地域や公民館などでどんなイベントが開催されているかなど、自治会や児童、民生委員、他機関とのつながりを持ち、障がい児（者）も共に参加できる地域一体の関係づくりを構築していきたい。
子ども・ 子育て プラザ	・利用者との会話や態度、服装等から、利用者の困りごとや気になることなどの情報を収集している。 ・イベントに参加してもらい、そこで話が弾まれている。そうやって知り合いが増えてつながりができたらと良いと思う。	・イベントに参加してもらい、知り合いを増やしてつながりを作っている。 ・気になることを職員間で共有するとともに、対応について検討し、必要に応じて区役所・学校をはじめ関係機関と連携を図っている。	・イベントで知り合って、せっかく仲良くなられているのに、こちらの都合で「イベントは終わったから帰って」となっていること。 ・次の場所を用意しないといけないと考えている。	・近隣の子育てプラザと連携できたらいい。 ・プレパパ・ママ講座は北区はすぐにいっぱいになるが、近隣区はガラガラだったりする。	・近隣区の子育てプラザとの連携。 ・イベント後の次の場所の提供。
居宅介護 支援 事業所 ・ 社会 福祉施設	・施設等でコロナが5類へ移行するもまだまだ地域参加型の活動には消極的に思える。 ・相談があった際は、各機関の窓口に残っている。 ・何が困っているのか、地域課題をうまく把握できていない。	・施設等で外出レクや各種ボランティアの受け入れを予定しており、年末年始の外出、外泊も去年は許可をしていなかったが、今年は希望される方には感染防止策を行えば可能としている。 ・これから取り組むこととして、ニーズ調査をしようかと思う。 ・制度のことを知らない方が多い。できるだけお知らせするようにしている。	・地域活動などには参加していきたい。 ・問題意識を持つ。 ・利用者の状況把握の難しさ。認知症もあるので把握は難しい。 ・また本人もしんどいことの発信が難しい。	・各事業所に残っていくというのをやっている。施設内では情報の共有はできている。 ・セキュリティの高いマンションのデイ利用者の送迎が、入れないことで行けないケースも出ている。いい方法がないのかなと思っている。 ・難聴だと電話も出てくれないので中からも開けてもらえない。 ・行政側からの地域課題の発信が不足していると思ったが、困っている側から発信してもらわないとキャッチできないと思った。	・居宅介護支援事業所としての役割を果たしていく。 ・地域活動への参加。

所属機関 出席者 意見	①地域や施設等で「気になった」出来事がありましたか？	②気にかけて、気にかけてあった行動や取組はありますか？ （継続した取組、新たな取組など）	③課題として感じたこと等がありますか？	④他機関と連携した、協働した、もしくはできたろうまくいったのではというケースはありますか？	⑤今日話した中で、工夫したこと、改善点、良いアイデアとがありますか？
区役所 防災 保健師	・認知症予防教室の開催 ・失語症、記憶障がいのある来庁者にヘルプマークの趣旨を説明し交付した。 ・独居高齢者で地域への関わりを拒否している方に見守り相談室や地域福祉コーディネーター、地域活動の案内を行った。（緊急通報システムの制度案内も） ・引っ越しして日の浅い人が子育て層や妊婦の方に多い。実家が遠い方が多い。お母さん同士が交流できる場が多くあったらと思う。 ・コロナで地域での防災訓練ができなかったが、徐々に再開できている。避難所開設に福祉の視点を取り入れる必要を感じている。 ・高齢者等の個人別の支援計画を一部であるがスタートできた。	・理解できにくい部分について個別対応・支援を行った。 ・区で実施している母の交流会、地域の子育てサロンへ紹介 ・来庁者を観察し業務以外での声掛け、制度案内を行った。 ・他課との連携、勉強会の実施（顔見知り・関係づくりを行った） ・地域とのつながりが希薄。多職種との連携も大切。 ・地域に繋がっていない方って結構いてということ。 ・マンション居住者の防災意識が高まらないこと。	・他事業者との連携 ・個別の支援 ・職員同士の交流がなくなった（顔も名前も知らない） ・教室参加者の理解力が不明である。 ・子育てに不安を感じている母親が多い（転入者、核家族） ・地域とのつながりが薄い。 ・区役所内での連携が出来ていない。 ・職場での課題。中堅層がおらず、経験の少ない若手職員との連携をどう図るかが課題。 ・地域イベントに参加しても若い人は情報だけもらえたらいいという感じで、効率重視となっている。	・防災意識の高まりの必要性。学校で児童生徒に知ってもらい、保護者に共有してもらうとか。高齢者、障がい者には病院とか通所施設とかと関わっていくといいのかなと思う。	・窓口で気になった方がいれば本人了承のもと、見守り相談室、地域福祉コーディネーター、地域活動を案内する。 ・他課との勉強会の継続、連携強化 ・区職員の地域活動への参加 ・認知症の疑いなどで、見守りを包括や地域の役員さんなどをお願いした。